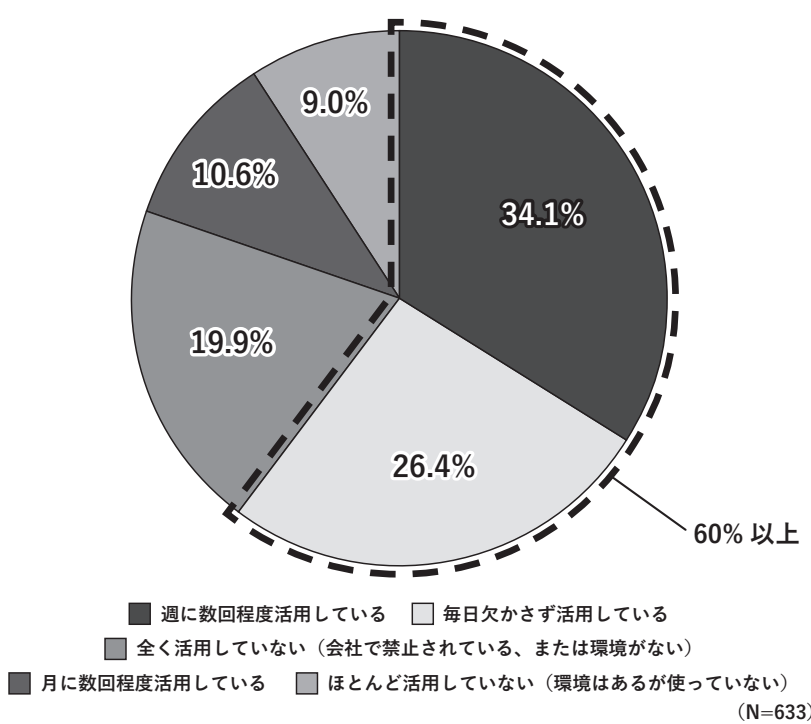


# 「AI」活用 企業選択に影響

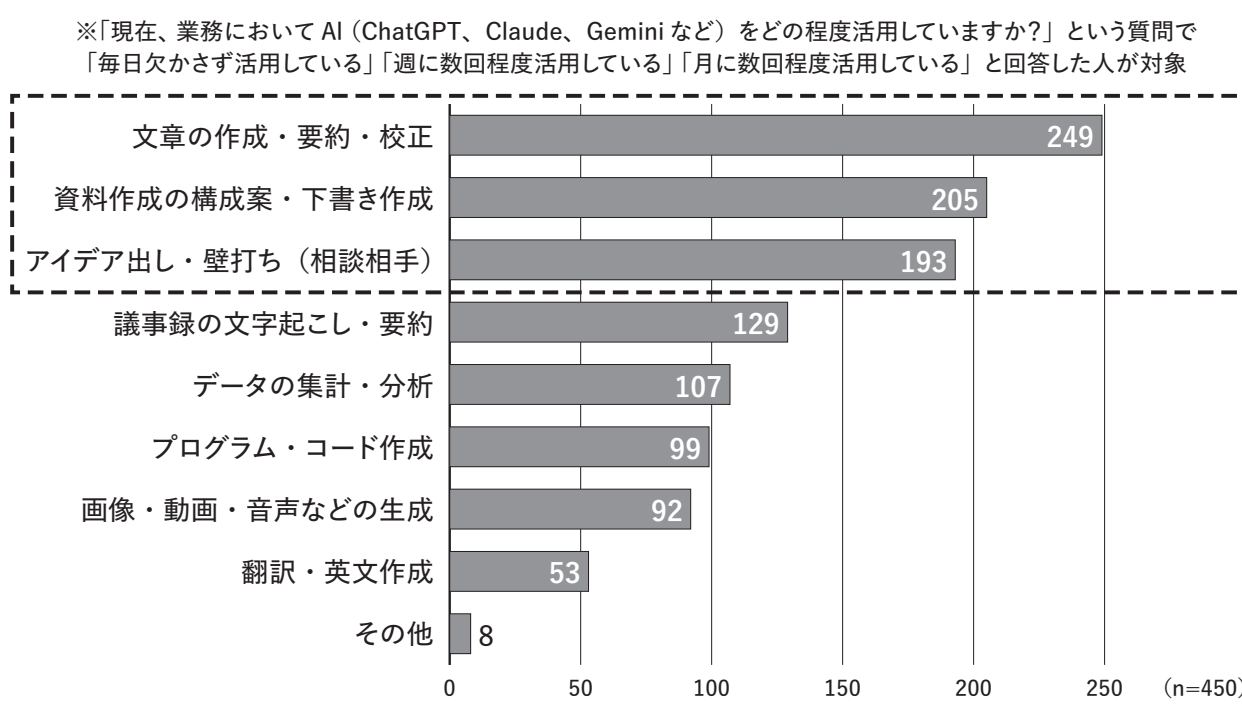
## 若手社員 6割が「毎週活用」、転職理由にもAI意識

調査データ

### 現在、業務においてAI(ChatGPT、Claude、Geminiなど)をどの程度活用していますか？

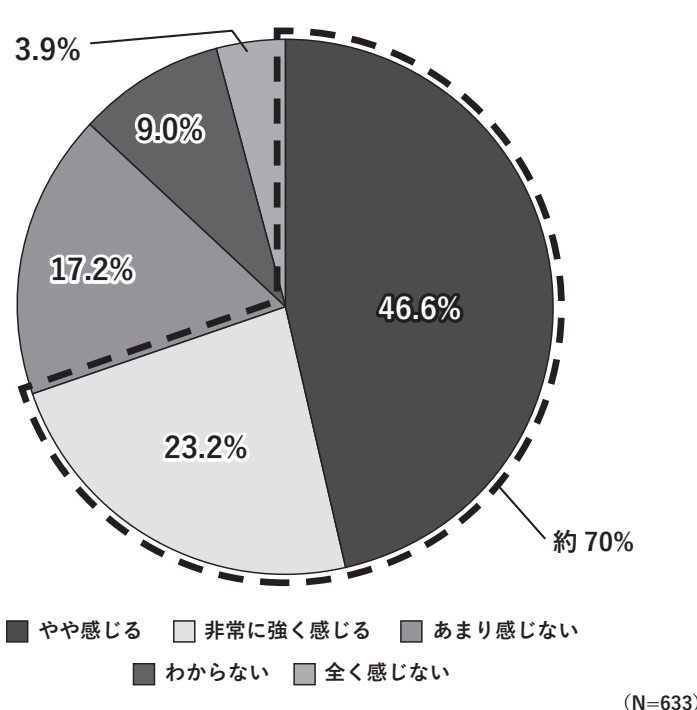


### AIをどのような用途で使っていますか？(複数回答可)

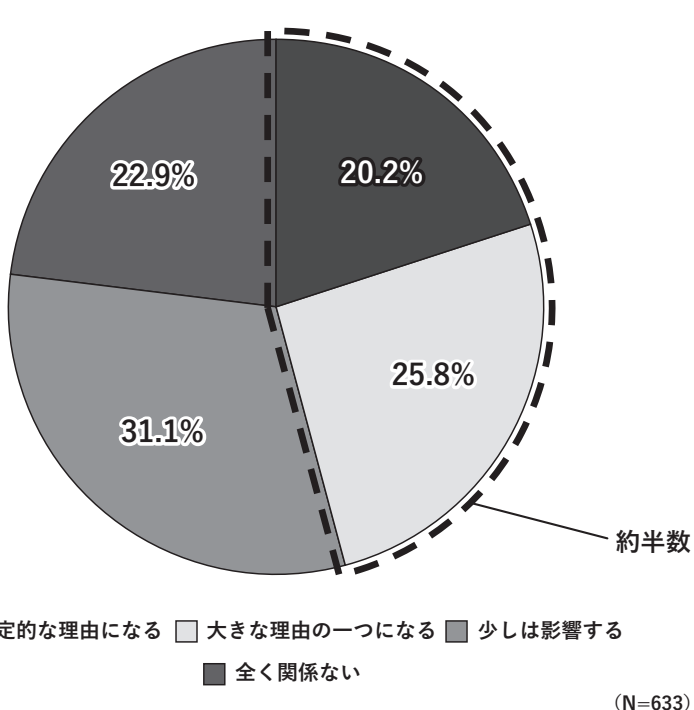


生成AIの普及が進む中、若手人材の間でも活用する調査の結果、成・要約・校正」資料作成が広がり、AI活用の有無と、新卒入社1〜3年目の成の構成案・下書き作成」が転職意向に含まれる傾向が顕著である。若手従業員の6割以上が週に複数回以上生成AIを活用していることが分かった。クラウド会計ソフト「revo」を提供するフリー（毎日欠かさず活用して1（東京都品川区）が実施した「若手従業員におけるAI活用実態調査」。

### AIを使いこなせるかどうかで、5年後の年収や市場価値に差が出ると思いますか？



### 勤務先のAI活用状況が不十分な場合、転職を検討する理由に入れますか？



「AIを使いこなせるか」で5年後の年収や市場価値に差が出るという傾向が示された。AI活用が広がり、非利用者の利用意向と、実際の利用を比較すると、生成AIを利用していない回答者が「利用してみたい」と回答した割合が約7割に達している。また、「AI活用が不十分な場合、転職を検討する理由に入れますか？」という問いに対し、約半数の回答者が「決定的な理由になる」「大きな理由の一つになる」と回答した。利用サービスは「ChatGPT」が72.0%で最も多く、「Copilot」(40.3%)、「Gemini」(28.7%)、「Claude」(2.3%)、「DeepSeek」(2.3%)、「Stable Diffusion」(2.0%)、「Midjourney」(1.7%)、「DALL-E」(1.7%)、「その他」(2.0%)が挙げられた。

経営者・役員など

## 効率化重視、戦略的活用は低水準

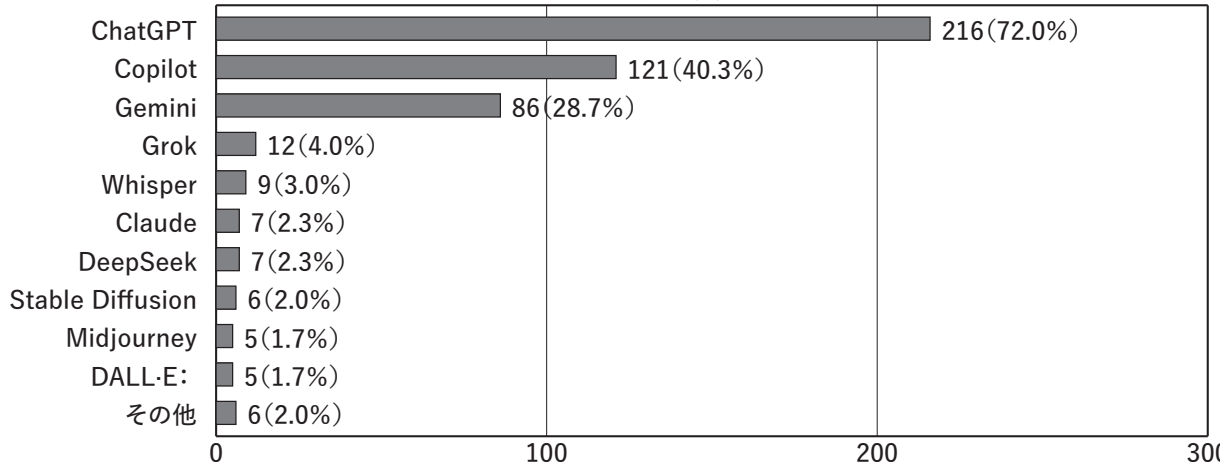
※1 3月13〜15日の期間、全国の新卒入社1〜3年目の22〜26歳の男女の従業員663人を対象にウェブアンケート方式で実施  
※2 昨年9月10〜18日の期間、従業員11人以上の組織に勤めるビジネスパーソン(経営者・役員・正規社員)729人を対象にウェブで実施

間の短縮」(50.0%)が最多で、「生産性向上」(42.0%)、「作成物の精度向上」(32.3%)が続いた。一方、「新製品・新サービスの創出」(8.0%)、「採用面でのPR効果」(6.7%)などは低水準にとどまった。若手人材の価値観が変化する中、AI活用は単なる業務効率化の手段にとどまらず、企業の競争力や人材確保を左右する要素となりつつある。企業側には、活用の深化と戦略的導入が求められる。

### 生成AI利用者(利用機能)と非利用者(利用意向機能)との比較(MA)

機能	利用者(n=300)	非利用者(n=196)	差(利用者-非利用者)
文章要約	36.7	41.7	4.9
文章等の校正・添削・評価	32.7	39.7	7.0
書き起こし	30.7	31.6	▲1.0
翻訳	17.3	29.0	11.7
情報収集の自動化	27.7	33.2	▲5.5
メールや発表資料のドラフト作成	22.7	21.4	1.2
データ分析	19.3	41.8	▲22.5
プログラミング関連	15.3	13.8	1.6
チャットボット	6.1	15.0	8.9
法令の確認・組織内規定の情報検索	13.0	15.3	▲2.3
議論するための壁打ち相手	11.7	10.7	1.0
挿絵・イラスト等の生成	8.0	10.2	▲2.2
スライド生成	7.7	9.7	▲2.0
優秀なものの選定作業	7.3	10.2	▲2.9
合成データの生成	7.3	9.7	▲2.4
疑わしい取引の検知	5.3	13.8	▲8.4
動画生成	3.3	11.2	▲7.9
領収書・請求書の仕訳自動化	2.7	13.3	▲10.5
音楽生成	1.3	3.6	▲2.2
その他	1.0	0.5	0.5

### よく利用する生成AI(MA)(MT=1.6)



### 生成AI利用で得られる効果(MA)(MT=3.7)

